

日本育種学会第 142 回講演会 男女共同参画推進委員会 ランチタイムセミナー 実施報告書

日時：2022 年 9 月 24 日（土）12:00～13:00

開催場所：帯広畜産大学 講義棟一階 大講義室

後援：男女共同参画学協会連絡会

講演タイトル：「ハラスメントのない良好な研究環境をつくるために ～学会のできること」

話題提供者：御輿 久美子氏

（特定非営利活動法人 アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク（NAAH ナア））

本セミナーは、特定非営利活動法人 アカデミック・ハラスメントをなくすネットワークの御輿 久美子氏を講師に迎え、「ハラスメントのない良好な研究環境をつくるために ～学会のできること」をご講演いただきました。

オンラインで講演いただいた御輿 久美子氏



今回の男女共同参画推進委員会のランチタイムセミナーは3年ぶりに開催された対面形式によるものでしたが、当日来場いただいた参加者 100 名に加えオンラインで 1 名の計 101 名の学会員の出席があり、研究現場におけるハラスメント問題への関心の高さを認識できました。

御輿氏からは、実際に生じたアカデミックハラスメント、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等の合計 24 の事例についてそれぞれ詳細に経緯を紹介いただき、また当時の被害者の傷の深さ・深刻さなども併せて紹介いただくことで非常に考えさせられる内容のものでした。また、研究という場における指導者または上司にあたる者からのハラスメントにおいては、被害者が告発しにくい・できない事例が非常に多いということも紹介され、被害者救済のための様々な問題点、対応のポイントなどが挙げられました。特に、学会員が加害者である場合に、学会はどのような対応をするべきであるかという問題点が提起され、被害者が研究活動を維持できるように学会がきちんと対応できる体制を構築する必要があるとの講師からの指摘がありました。

質疑の際には、学生さんから、ハラスメント問題を自分の身近な問題であると捉えているような質問も見られました。貴重な内容でしたので、以下に質問事項と御輿氏による回答を簡単に記載します。

・学生からすると、学会は多くの偉い先生方が運営される組織と捉えていて、相談しにくいこともあります。

ハラスメントの学会相談窓口となる組織は相談しやすいものであってほしいです。

→加害者に対する所属組織等による処分が公表された場合、学会も活動停止など何らかの対応をきちんととることで、結果的に学会の信用が得られて相談しやすくなるのではないのでしょうか。

・被害者から訴えがあったとき、加害者の所属組織の処分が決まる前であっても学会側の対応をとることも必要であると話されていましたが、実際には難しくないのでしょうか。

→グレーゾーンの時はあるのですが、申し立てを放置せず話を聞いて研究が継続できる対応は必要です。可能な限り、被害者、加害者本人、周囲に話を聞いて状況を把握して判断することが必要になります。話をきく役割は非常に高いスキルが必要ですが、講習などもあるので、そのような役割の方を設けることをぜひ検討してほしいです。

・自分が告発することで、加害者の周囲の関係者にも影響するなど波及効果を気にして告発できない場合どうすればよいのでしょうか。

→実際にそのような例が多数見受けられます。被害者自身が申し立てに時間と労力を使わねばならないことも一因ですね。卒業したらもう関わりたくないということで明るみに出ない場合もあります。教員に対しては、ハラスメントのチェックリストを作って確認して、誓約書を書いてもらうようにする対応や、大学内でハラスメント実態を調べるアンケートを取るなどして、色々な方法で実態を明るみにしていくしかありません。

・実際大学ではどれくらいのハラスメント問題が生じているのでしょうか？ハラスメントを気を付けようという教員はたくさんいると思いますが、そうすると学生に対する発言等を遠慮する教員も増えていて、これは教育という意味では逆効果になることもあるのではと懸念しています。

→教員ではないが、パワハラ実態調査という全国の事業所への調査では、被害者は3割という結果があります。また20年くらい前になりますが、大学でハラスメント被害者として4人に1人くらいが手を挙げた調査結果もあります。現在大学でどのくらいのハラスメントの実態があるかはわかりませんが、何がハラスメントになるか非常に難しいところもあり、常にチェックリストで自分の言動を確認するようにしてもらって、日常の中でそういったことが生じないように努力するしかありません。

以上のように、被害者を守るといふことと事実関係の把握、加害者への対応といふことの間で、学会がすべきことについては、まだまだ問題点も多く、今後、男女共同参画推進委員会としても対応策を検討しなければならないことを考える時間になりました。

出席者の皆さまによる質疑および参加者の方からのアンケート結果を通して多くの貴重な意見が寄せられたとともに、男女共同参画推進委員会として対応していかなければならない問題点も浮き彫りになってきたように思います。今後、当委員会では、より一層、どの学会員も安心して研究活動を行える学会の場の実現を目指して活動して参ります。ご講演いただいた特定非営利活動法人 アカデミック・ハラスメントをなくすネットワークの御輿氏、ならびにご参加いただいた学会員の皆さまに心から感謝申し上げます。

質疑応答時の会場の様子



日本育種学会第 142 回講演会 男女共同参画推進委員会企画ランチタイムセミナー

アンケート結果（セミナー参加者 101 名、うちアンケート回答者 25 名）

1. あなたの性別を教えてください。

男性・女性・その他・回答しない

2. あなたの年代を教えてください。

20代・30代・40代・50代・60代・70代以上・回答しない

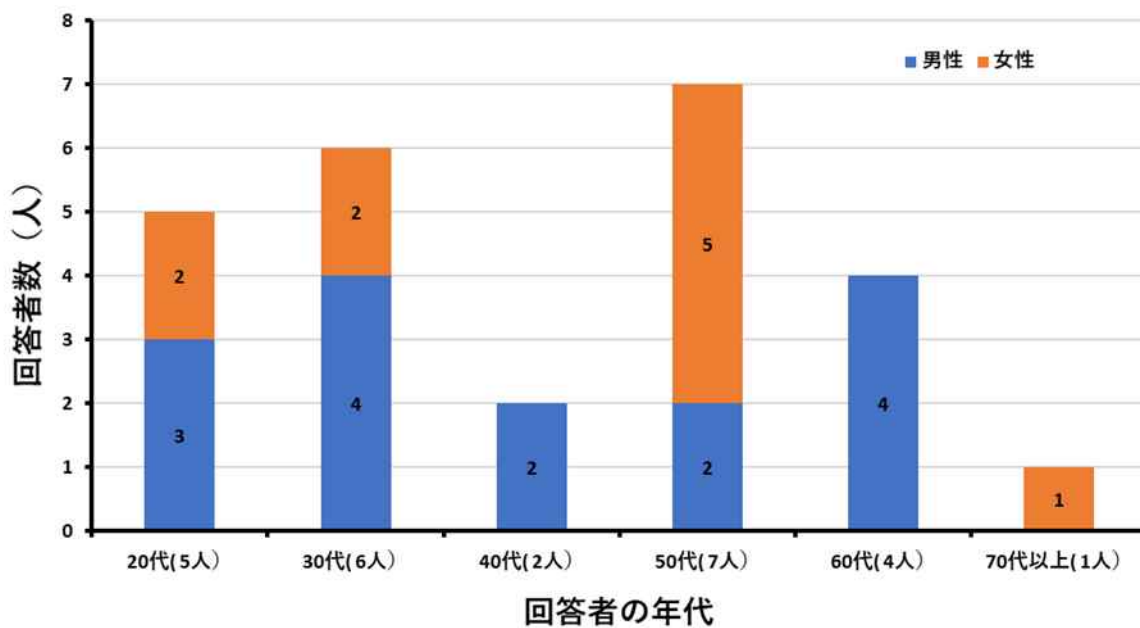
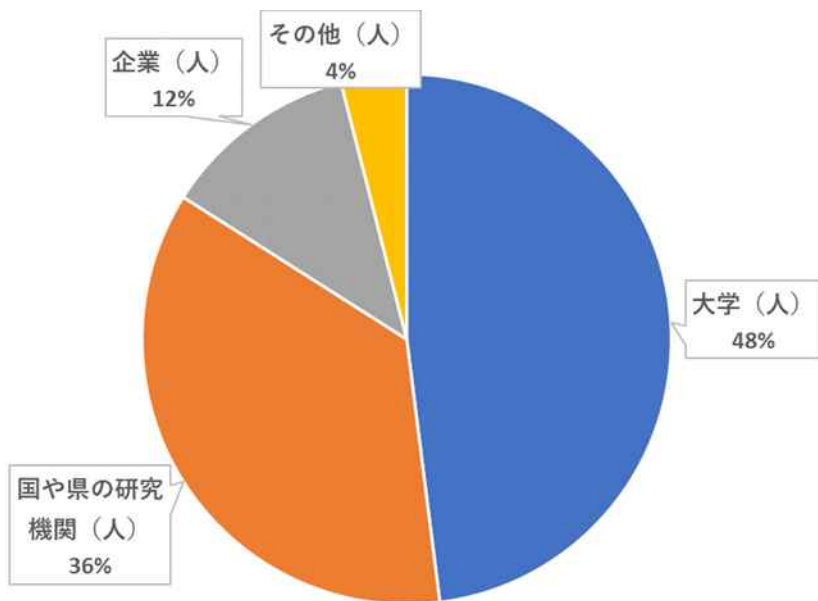
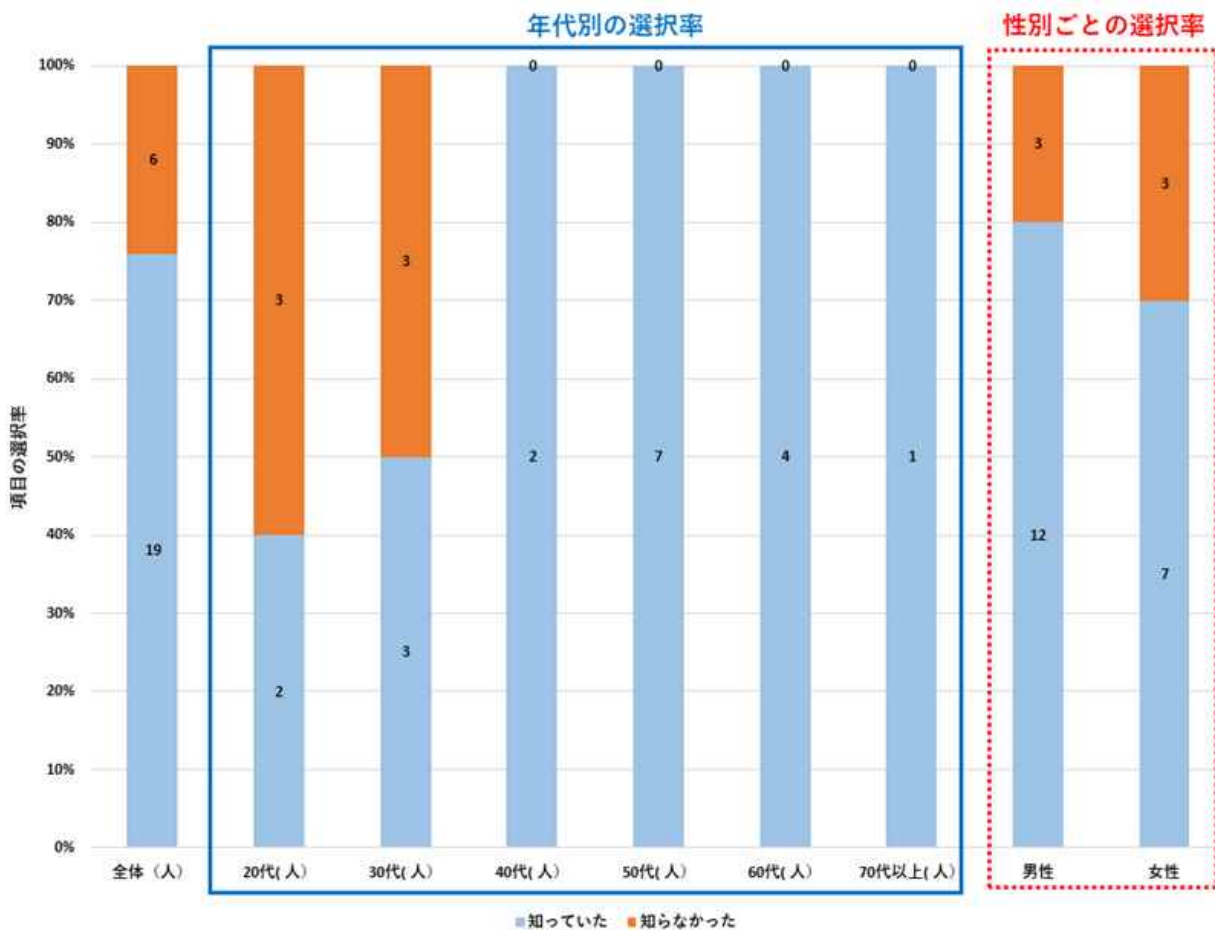


図 1. アンケート回答者の年代分布および各年代における性別毎の回答者数
横軸括弧内は各年代の総人数を示す。

3. あなたの所属先を教えてください。
 大学・国や県の研究機関・企業・その他



4. 日本育種学会には男女共同参画推進委員会があり、男女共同参画に関する活動を行っています。知っていましたか？ 知っていた・知らなかった



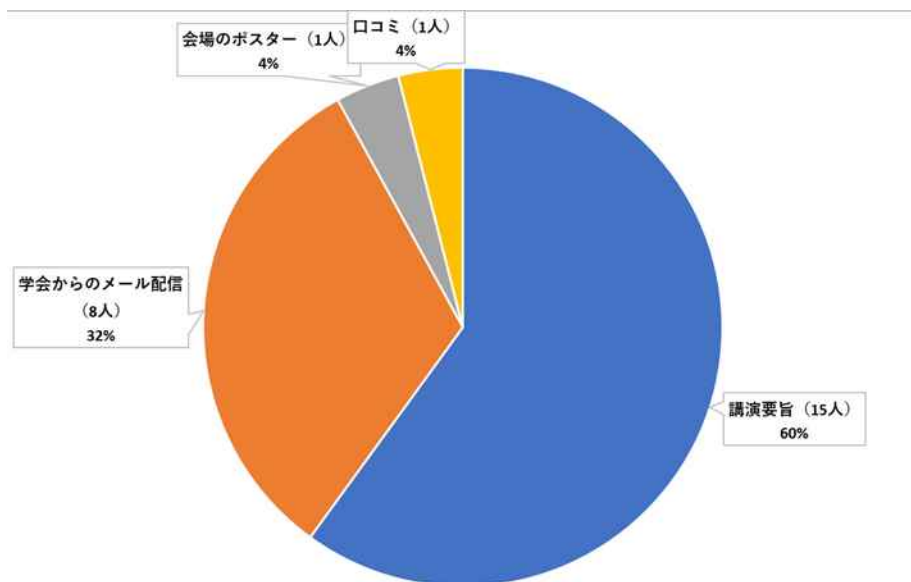
5. あなたは第 142 回講演会に参加していますか？

参加している・参加していない

→講演会に参加しないオンラインでの参加者は 1 名でした。

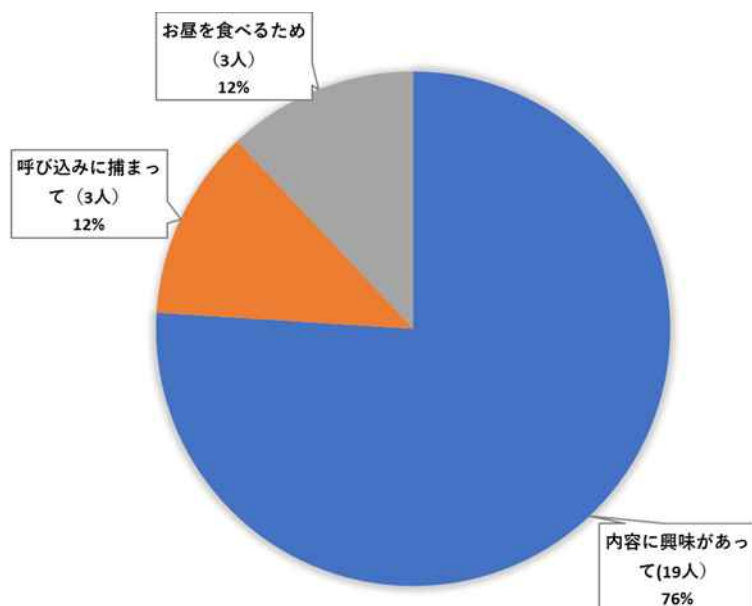
6-1. 今回のランチタイムセミナーについて何を見て知りましたか？

講演要旨・学会からのメール配信・会場のポスター・ロコミ・その他



6-2. 今回のランチタイムセミナーに参加された理由を教えてください

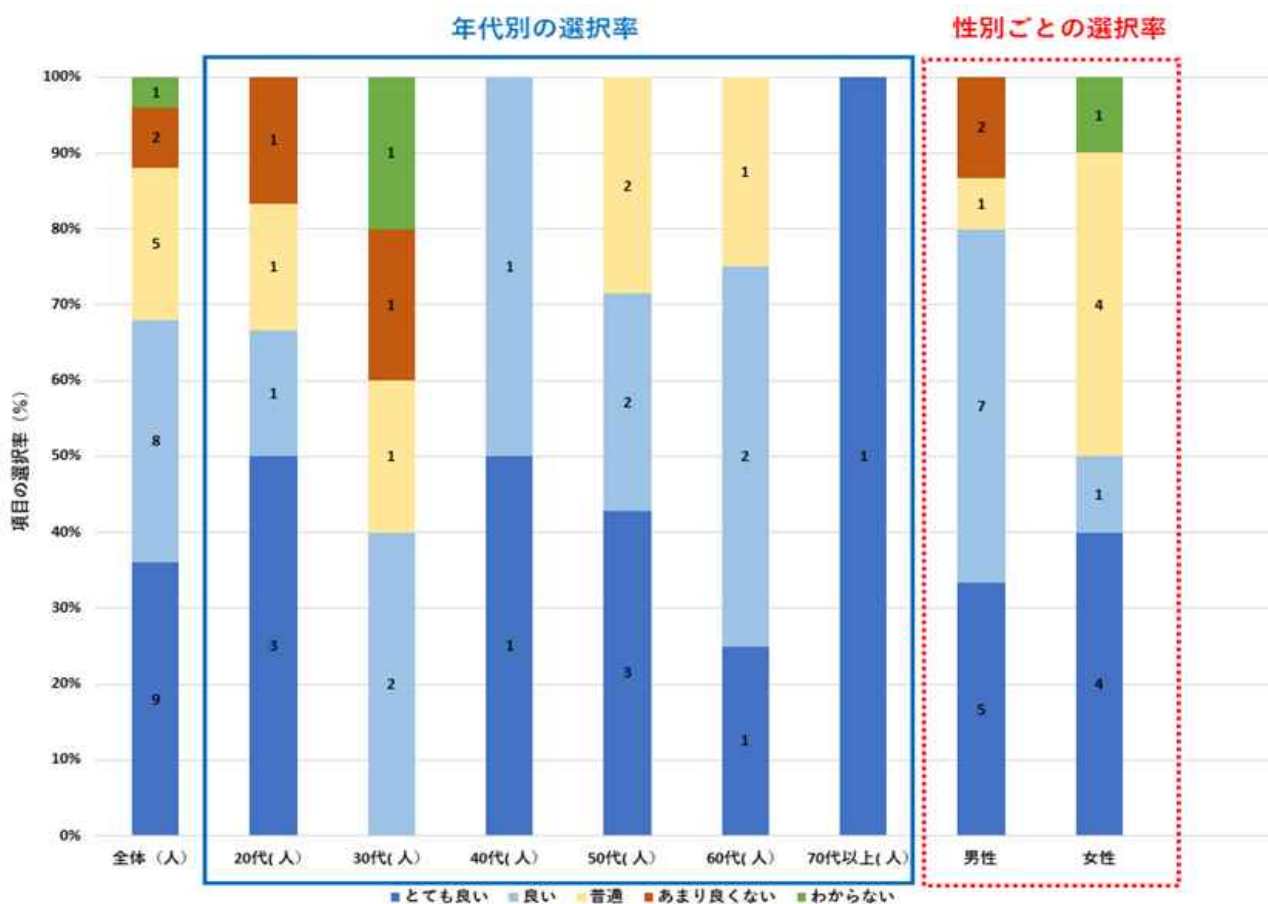
内容に興味があって・呼び込みに捕まって・お昼を食べるため・その他



7. 今回のランチタイムセミナーに関して教えてください。

6-1. セミナー内容はいかがでしたか？ *

とても良い・良い・普通・あまりよくなかった・良くない・わからない



7-2. 普段の生活でセクシャルハラスメント・アカデミックハラスメント・パワーハラスメント等を意識したことはありますか？ ある・ない



7-2-1. 7-2で「ある」と回答された方へ

ハラスメントを意識したのはどんな場面でしょうか？

差し支えなければ具体的に教えてください。

回答者性別・年代	ハラスメントを意識した場面
女性 20代	知り合いがセクハラを受けていた
男性 60代	同様の事例を体験したので
男性 20代	後輩への指導
男性 30代	友人（複数）が被害にあったとき
男性 50代	学生の指導の際に、きつく指導して、これは取りようによってはパワハラになるだろうか?と思ったことがあります。
男性 60代	セミナーで
男性 30代	同僚がハラスメントを受けていたことがある。会社でハラスメント教育を実施している。
女性 30代	大声で怒鳴られたり、性差に関する発言があった時
男性 20代	ゼミや会議等での強い発言
男性 60代	学生との打ち合わせ等において。
女性 50代	グループ員が大学時代アカハラにあって休学していたと聞き、そのグループ員への対応には気を使っている。
女性 30代	結婚前にはプライベートな質問をされることが多かったが、結婚後になりに減った。また、産後に自分の意志や都合とは無関係に、仕事が割り振られなくなったり、仕事に関する情報が回されなくなった。
男性 50代	学生に対して実験の進捗や行動に気になることがあったときに、どのような言葉であればハラスメントとかわからないかを気にします。
男性 60代	大学内での全ての活動
男性 40代	具体的な場面と言うより、自身の言動がそうならないよう常に意識している。

7-3. ハラスメントのない良好な研究環境をつくるために、日本育種学会として具体的にどのような取り組みが必要とお考えでしょうか？ご意見等ありましたら、お書きください。

回答者性別・年代		
女性	20代	ハラスメント委員会の発足
女性	50代	今回の講演会のようにハラスメントを意識する機会を継続的に作っていくのは1つの方法かと思いません。
男性	20代	選択的ではないセミナー
男性	30代	ハラスメント防止ポリシーの策定、実施（他の学会での事例を参考に）
男性	50代	ご提案のあったようにハラスメント防止委員会を設置する必要があると思いました。
男性	60代	啓蒙パンフレット
男性	30代	前会長の事件も踏まえて、積極的にハラスメント防止を発信してほしい。
女性	30代	今日ご紹介のあったように、ハラスメントに関与した場合、学会から除名する、と表明していただけるだけで、かなり状況が変わると思います。
女性	50代	ハラスメントが起きてしまったから解決するのはとても難しいので、地道にハラスメントを意識するような取組を繰り返し続けることが必要だと思います。
男性	60代	学会としての取り組みには限界があると思います。日々の生活でできるだけ1対1の場面を作らないことだと思います。
女性	30代	地方で研究を行っているいち学会員には、前会長の逮捕後に学会がどのような対応を取られたのかよく分かりませんでした。再発防止策など誰でもアクセスできる方法でご説明いただければと思います。
男性	50代	あってもいいと思いました。ただしハラスメント認定の権限はないので、できることは多くないかもしれません。
女性	50代	今回の演者からのご提案の通り、学会としてできることを是非とも実現していただきたい。
男性	60代	現状の取組の継続（縮小はまずいが拡充の必要も無い）
男性	40代	講演会の話にもあったが、学会として相談窓口を設けることは、助けを欲している方にとっては有用なチャンネルの1つになるのではないかと。

7-4. 今回のランチョンセミナーの感想をなんでもお書きください。

回答者性別・年代		今回のランチタイムセミナーの感想
女性	20代	とても貴重なお話をありがとうございました。
女性	50代	被害者への支援というのはこれまであまり意識していなかったので、そういう視点からも考えてみようと思いました。
男性	20代	学生として、ハラスメントを受けやすい立場にいるのだから、周囲の学生にお互いに気を配っていきたいと感じた
男性	20代	参加者を見てみると若い世代の方特に女性が多かった。選択的なイベントにしないで聴講必須にすべき。
男性	30代	テーマは非常によかったし内容も参考になるところはあったが詳細や質疑応答の掘り下げがもっと深まればさらによかった。また分野のダイバーシティ（の不足）の観点と結びつけた議論（運営に女性、若手研究者や学生や海外からの研究者の声を反映することを確実にするような）などあればより今後の改善に実効性の高いものになるものになるかもしれないと思った。
男性	50代	いろいろと考えさせられました。
男性	60代	原因は何なのでしょう？
男性	30代	文字面ばかりで核心に触れられたのが不明瞭であった。
女性	30代	今回ご紹介いただいた事例は、立場が上の人によるハラスメントばかりでしたが、逆のハラスメントもあるので、その点にも考慮した方が良いと思いました。
女性	50代	具体的な大学名が出てきて、ハラスメント事案が多いことを実感した。一方で、学会でできることには限りがあるとも感じた。また、ハラスメントを気にして指導が徹底できなくていいのかというセミナーの質疑応答で出された意見もその通りだと思う。
男性	60代	時代の変化についていけない世代にとって、罰則を意識しながら研究活動をするというのは効果的かもしれませんが、、、。
男性	50代	ハラスメントの実例紹介が多かったのは参考になったが、防止に向けた他学会の取り組みなどがあれば紹介してほしい。 (セミナーそのものの感想ではないが)引き続き参加者同士で意見交換する機会があってもよかった。
女性	50代	セクシャルハラスメント・アカデミックハラスメント・パワーハラスメントは似たような構造で起こり、対策も共通する部分があると感じました。
男性	60代	認識の喚起には極めて重要
男性	40代	発表内容が素晴らしいという訳では決してなかったが、淡々と事例を紹介するだけでも身につまされる思いをする方はきっと居て、一定の抑止効果につながるような気がしました。こうした取り組みは定期的に粘り強く続けるべきだと思います。

8. 今後、ランチオンセミナーでの講演で聞いてみたい内容（就職、研究資金獲得、子育て、介護等）や、このような方に講演してほしいなどの希望があれば、具体的に教えてください。

回答者性別・年代		今後のランチタイムセミナーでの講演で聞いてみたい内容
男性	60代	研究の面白さ
男性	30代	育児支援
女性	30代	子育てについて、聞きたいです。
女性	50代	農研機構や県の職員、大学職員の採用についての説明と、こんな人を求めているという採用側の意見を、また、聞いてみたいと思う。
男性	60代	良い企画を楽しみにしています。
女性	50代	育種学会や育種分野における男女共同参画の現状と課題について。まだまだ男性優位の学会だと思う。
男性	50代	介護との両立については中堅以上の研究者には気になるところです。
男性	60代	妥当な男女比を達成するタイムスケジュールの共有
男性	40代	育種学会に所属する学生が就職する率が高い企業等の方からの話（内容はなんでもよい）

9. ランチオンセミナー以外で、男女共同参画推進委員会の活動に対して、このような活動や取り組みをしてほしいという要望があれば教えてください。

回答者性別・年代		
男性	60代	立候補は良いと思う
男性	60代	執行部や各種委員に女性研究者をもっと登用すべきではないでしょうか。
女性	50代	幹事、役員、評議員、支部会の役員などに、女性比率の目標を示すこと
男性	50代	産休・育休中の発表希望者向けにオンライン発表の機会があるとよいかもしれません。
女性	50代	今回の演者からハラスメントについてのアンケートについてのお話があったと思います。無記名でのハラスメントについてのアンケートをお願いしたいです
男性	60代	学会経費の支出による活動は慎重であって欲しい（精査が必要）